

## 国際化拠点整備事業（グローバル30）留学生日本語プログラム

### 2009年度報告

初鹿野阿れ・徳弘康代

平成21年(2009年)7月に名古屋大学が国際化拠点整備事業（グローバル30）の拠点として採択され、2011年度に新設される英語コースの日本語教育担当として2名の教員が採用された（11月に1名、翌年2月に1名が着任）。したがって、本年度の報告は2009年11月からの活動報告である。

本年度の活動は、英語コースにおける日本語科目設置準備と留学生用教材『留学生のための専門講義の日本語』の作成である。本稿では、今年度の主な活動である教材作成について報告する。

#### 1. 教材作成の目的

『留学生のための専門講義の日本語』は、ある程度日本語の学習が進み、日本語の講義を受けたいという希望を持つ学生のために、専門的な内容の講義を受ける準備に使用できる教材となることを目的として、国際交流協力推進本部及び留学生センターの教員が中心となり、学部、大学院の協力で作成された。内容は、大学の講義を模した短い講義を行い、それを撮影したDVDと、講義を文字化したものとその英訳及び日本語解説を付けて本としたものからなっている。全9分冊で、各分冊に4～6分野が収められている。9分冊



図1 『留学生のための専門講義の日本語』 9分冊

は、「法学・政治学編」、「経済学編」、「教育学・心理学編」、「数学編」、「物理学編」、「工学（化学・生物）編」、「工学（機械）編」、「工学（土木・建築）編」、「生命農学編」である。（図1）

各編の第2部は、章立てになっており、1講義が1章である。例えば、『留学生のための専門講義の日本語 一工学（機械）編一』第2部は、第1章「材料力学」から第6章「加工学」までの6章で構成されている。

#### 2. 教材作成の過程

教材は以下のような過程で作成された。

2009年11月	教材作成に当たっての方針決定 専門監修の方々への説明、依頼 執筆協力者の募集
2009年11～12月	執筆協力者への説明、依頼 講義原稿執筆
2009年12月～2010年1月	講義ビデオ撮影
2010年2月	講義原稿完成、原稿英訳
2010年2～3月	日本語解説執筆 編集、校正
2010年3月31日	完成

専門監修の方々、執筆協力者へは、以下の点を説明し、協力をお願いした。

- ・学部1、2年生が学習しなければならない専門的基礎知識について30分程度の模擬講義を行ってほしい。
- ・高校レベルの内容ではなく、大学の講義レベルの内容にしてほしい。
- ・対象者が留学生であることを意識する必要はない。
- ・実際の大学の講義に近づけるため、原稿を読み上げるのではなく、受講学生に話しかけるように模擬講義を行ってほしい。
- ・原稿執筆においてもなるべく話し言葉に近づけてほ

しい。

各編の各章のトピック選定については専門監修の方々にお任せした。

日本語監修は、留学生センターと国際交流推進本部の教員が1編ずつ担当し、執筆協力者と連絡を取りながら、専門講義の日本語原稿及び英訳の編集、校正、ビデオ撮影の日程調整等を行った。その上で、各編の講義を留学生が理解するために必要と思われる日本語について、解説を執筆した。

本教材作成にあたり、専門監修として名古屋大学大学院法学研究科、経済学研究科、教育発達科学研究科、工学研究科、環境学研究科、生命農学研究科の教員16名、講義原稿執筆・撮影協力者として同研究科及び国際開発研究科の大学院生66名にご協力をいただいた。ここで改めて感謝申し上げたい。

### 3. 教材の構成・内容

本教材は、各編とも以下の構成になっている。

・DVD

・本 第1部：講義に役立つ日本語

第2部：各章ごとに本文、英訳、日本語解説以下、それぞれの内容について説明する。

#### (1) DVD

この教材の大きな特徴は大学の授業を模した講義、46章分が録画され、DVD化されている点である。

講義原稿の執筆は各章1人～数人で担当しており、その中の1人～数人が原稿に基づき模擬講義を行っている。ほとんどの講義で、教室のスクリーンにスライ

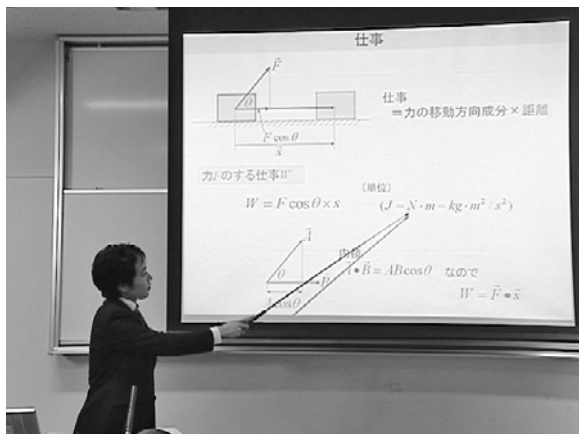


図2『留学生のための専門講義の日本語－物理学編－』DVDより

ドを映し出し、講師役の大学院生がそれを説明しながら授業を進める形で行われている。(図2)

内容的なまとまりや話すスピードにより、各章は15分～30分程度の長さになっている。

学習者は、このDVDを視聴することで、実際の大学の講義を受ける前に、講義で話される日本語の速さや、講義の流れに慣れることができる。また、未習の専門用語の聴解や、日本語の教科書ではなかなか学ぶことの難しい講義の話し言葉の聴解練習が可能となる。

#### (2) 本

##### 第1部

第1部「講義に役立つ日本語」は、文体、文法、表現、漢字語彙等でDVD内の講義や実際の講義でよく用いられるものを取り上げて、それらについて簡単に解説したものである。(図3)この第1部は、講義に共通してよく現れる表現であるため、9分冊すべて同じものである。

##### 第2部

第2部は、DVDに収められた各模擬講義の原稿である。図4にあるように、講義で使用されているスライドが上に掲載され、その下左側には、講義で話されている日本語原稿(本文)が、その右側には、英訳が書かれている。さらに、スライドごとに、「キーワード」として重要語彙がピックアップされている。また、それに関連して知っておくべき専門用語がある場合は、「関連用語」として英訳付きでリストアップされている。

各スライドの本文・英訳の後には、「日本語解説」として、講義のことばや表現で特に説明が必要であるもの、わかりにくい文構造、語彙としての汎用性の高い漢字等を日本語教育の視点から解説している。

学習者への負担を考え、日本語で書かれた文には、すべての漢字にふりがなをつけた(スライド中の漢字は除く)。また、数式や化学式等読み方が難しいものには、その読み方を付した。

本文については、各編の執筆担当者によって原稿の書き方が様々である。話したものを忠実に文字化している場合は、文法的にみると破綻している表現や、重複があるものもあるが、実際の講義ではよくあることであり、できるだけ忠実にという観点からそのまま載せているものもある。一方、文語的表現の多い硬い文章で、読まれることを重視したタイプの文章もあ

### 講義に役立つ日本語

講義で使われる日本語にはいくつかの特徴があります。ここでは、それらの特徴を簡単にまとめておきます。

1. 講義の日本語の文法

日本語では文を置くとき「だ体・である体」と「ですます体」を使います。新聞や論文のようにかたい文章では「だ体・である体」、手紙など相手に話そうとするときは「ですます体」を使います。話すときは、どこで誰に話しかけて文が変わります。スピーチや演説など話の最中話すときには「ですます体（丁寧体）」が使われますが、発言とおしやべりするときは敬語体で話します。

	現在 (present)	現在否定 (present negative)	過去 (past)	過去否定 (past negative)
動詞 (verb)	○○する (辞書形 dictionary form)	○○しない (ナイ形 nai-form)	○○した (タ形 ta-form)	○○なかった (ナイ形の過去形 nakatta-form)
い形容詞 (i-adjective)	○○い	○○くない	○○かった	○○くなかった
な形容詞 (na-adjective)	○○だ・である	○○ではない	○○だった・であった	○○ではなかった
名詞 (noun)	○○だ・である	○○ではない	○○だった・であった	○○ではなかった

	現在 (present)	現在否定 (present negative)	過去 (past)	過去否定 (past negative)
動詞 (verb)	○○します	○○しません	○○しました	○○ませんでした
い形容詞 (i-adjective)	○○いです	○○きありません / ○○きありません	○○かったです / ○○きありません でした	○○きませんでした
な形容詞 (na-adjective)	○○です	○○ではありません	○○でした	○○ではありません でした
名詞 (noun)	○○です	○○ではありません	○○でした	○○ではありません でした

	現在 (present)	現在否定 (present negative)	過去 (past)	過去否定 (past negative)
動詞 (verb)	○○る / 〇 (dictionary form)	○○ない (nai-form)	○○た (ta-form)	○○なかった (nakatta-form)
い形容詞 (i-adjective)	○○い	○○くない	○○った	○○くなかった
な形容詞 (na-adjective)	○○だ	○○じゃない	○○だった	○○じゃなかった
名詞 (noun)	○○だ	○○じゃない	○○だった	○○じゃなかった

例文：悪いものを食べた。それで、お腹が痛くなった。

- そこで  
意味：前である事柄や事象を述べ、そのことが原因や理由となって、ある行動をとることを示します。  
例文：悪いものを食べたため、お腹が痛くなった。そこで、薬を飲んだ。
- ゆえに  
意味：前のことをから、論理的に後ろの結論が導き出されるときに使います。  
例文：3つの内角がすべて60度で、3辺の長さが等しい「正三角形」を正三角形という。三角形ABCの内角はすべて60度で、3辺はすべて5cmである。  
ゆえに(∴)、三角形ABCは正三角形である。
- そのため  
意味：前のことが理由という意味です。  
例文：乾薪した目が紅い。そのため、火災が多く発生した。
- すると  
意味：前のことに続いて、後のことが起きるときに使います。後に起きることを予測していなかった場合に多く使います。  
例文：A様はB様を加えた。すると、悪い反応が起こった。

③逆接  
逆接では、前の部分から予想できることと反対のことが後ろの部分にきます。  
・しかし、だが、でも  
意味：「しかし」は、書き言葉にも話し言葉にも使われる少しかたい表現です。「だが」は書き言葉ですが、あまり論文的ではありません。「でも」は話し言葉ですが、発表等では使いません。論文やレポートに「でも」を使ってもいいです。  
例文：仮説を立て、検証を試みた。しかし、実験の結果は仮説を支持するものではなかった。
- にもかかわらず  
意味：～であるのに。～とは反対の内容がくるときに使います。  
例文：注意していたにもかかわらず、事故が起きてしまった。

④並列  
二つ以上のものをとを並べて示します。  
・および、ならびに  
意味：「AおよびB」＝「AとB」、「AならびにB」＝「AとB」  
「および」も「ならびに」も「と」と同じ働きをしますが、右図のような関係の場合、(A、BおよびC、ならびにDはグループ1に所属する)となります。
- また  
意味：ならびに、その他に、という意味で並列と追加の意味を持っています。

— 5 —

— 17 —

図3『留学生のための専門講義の日本語』第1部「専門講義の日本語」より

ヒト男性の正常核型

Homo sapiens 2n=46,XY

X染色体とY染色体にある遺伝子の数  
X染色体: 1098個  
Y染色体: 78個(Y染色体には性決定遺伝子SRYが存在)

染色体に、存在しています。

SRY, and is the male-determining gene.

17. そのY染色体を持っていても、このSRY遺伝子がなければ男性にならず、女性になってしまうことが明らかになっています。

17. If the Y chromosome does not have SRY, then those individuals who carry such a Y chromosome do not develop into males, but into females.

18. 以上で、ゲノム、遺伝子、染色体について説明を終わります。

18. That concludes the explanation about genomes, genes, and chromosomes.

**キーワード**

・核型 ・相同染色体 ・核相 ・性染色体 (X染色体、Y染色体) ・常染色体  
・SRY遺伝子 (性決定遺伝子)

**日本語解説**

文2「～ごとに」

「ごと」は、「～のたびに」「どの～もみんな」という意味です。  
例：月ごとに家賃を払う。→ 毎月家賃を払います。  
例：家ごとに、パンフレットを持ってセールスに参りました。  
→ すべての家に行き、セールスをした。

ここでは、「染色体を大きさや形によってまとめて、その特徴にしたがって並べた」という意味です。

文3「～によって構成されています」

「構成する」は「いくつかの要素、部分を一つの物を作る」ことです。「～によって」は、その構成要素、部分を指します。  
例：この家系は、両親と2人の子供によって構成されています。  
→ 講義に役立つ日本語

文4「～ことになりました」

「～ことになりました」は、既に決定されたことや、結果を意味します。ヒトは、46本の染色体をもち、それが2本ずつになっているので、13組、23本の相同染色体をもつ結果になります。  
→ 講義に役立つ日本語

— 140 —

— 142 —

図4『留学生のための専門講義の日本語—生命農学編—』第2部より

る。こちらは、原稿と実際の講義での話し方に違いがあるものもある。

表現が一つの形式にならず多様であることは、実際の講義でも同様に起きることであり、学習者が様々なタイプの専門講義に慣れていくためには有効であると考えられる。

学習者は、DVDを見て講義の日本語を学ぶが、その学習の助けとして、この本を利用することができる。ある学習者は、講義で話されている専門的な知識を既に持っているであろう。また、知識が十分でない学習者も、英訳を読むことで内容を理解することができる。本教材では、その専門的な知識を利用することで日本語学習へとつなげていき、日本語を理解することでさらに専門的な知識を深めていく相乗的な効果が期待される。

#### 4. 今後の予定と課題

今後の予定として、本教材を関係各所に送付したいと考えている。特に、学内及び国内外の大学において留学生が活用できる場所へ献本したい。具体的には、他大学留学生関連機関、大学内図書館／図書室、国際交流室、留学生相談室等である。多くの留学生や教師に利用してもらい、広く意見をうかがいたいと思っている。

本教材は5ヶ月という短期間で作成したため、今後は更なる改訂が必要である。そのため、留学生からモニターを募り、半年程使用してもらった後でコメントを集めたいと考えている。

2011年度から始まる新しいコースの学習者のために、本教材をより役立つものにしていくことが今後の課題である。